

令和5年度 第9回

# 出水市教育委員会 会議録

日 時 令和5年12月5日（火）午後2時  
場 所 出水市役所 401会議室

出席者	
大久保 教育長	宮崎 教育部長
中村 委員	中原 教育総務課長
池袋 委員	田子山 学校教育課長
宮本 委員	眞正 学校教育課指導監
	谷川 生涯学習課長
	別府 出水商業高等学校事務長
	川添 青年の家所長
	岡本 学校給食センター所長
	古川 教育総務課 課長補佐兼教育総務係長

### 議決事項

件名	提案理由	審議の状況	可否の別
報告第9号 予算案の作成に係る市長への 意見申し出について (令和5年度出水市一般会計 補正予算第8号及び第9号)	予算案について、市長の諮問に応じ、意見を申し出たので報告するもの。	特記事項なし	受理
議案第19号 令和5年度(令和4年度事業) 出水市教育委員会の事務の 点検及び評価について	令和5年度(令和4年度事業)出水市教育委員会の事務の点検及び評価を実施するもの。	特記事項なし	可決

### その他

# 会 議 要 旨

## 1 開 会

## 2 会議録の承認

令和5年度第8回教育委員会会議録については、署名に代えて承認された。

## 3 教育長の報告

(教育長) 11月11日は蕨島小学校の130周年記念式典に出席した。地域の方も式典を祝いにたくさん出席されていた。

23日はすこやかな青少年を育む集いに出席した。音楽ホールとウイングドームを使って実施され、非常に内容の濃い集いとなった。

25日は出水市地区防災訓練が東出水小学校であり、地域の方々が防災訓練に熱心に参加されている様子を伺うことができた。

29日は県中学校国語教育研究大会北薩大会が米ノ津中学校であった。米ノ津中学校の先生の授業提供と、地域の国語科の先生が2人事例発表され、非常に有意義な大会となった。

〈各課長等から「教育委員会報告事項」に沿って、所管業務の報告〉

〈質疑なし〉

## 4 議事

報告第9号 予算案の作成に係る市長への意見申し出について（令和5年度出水市一般会計補正予算第8号及び第9号）

— 予算案について、市長の諮問に応じ、意見を申し出たので報告するもの —

〈教育部長が資料に沿って説明〉

〈質疑なし〉

〈議決〉

(教育長) 異議がないので、報告第9号は原案のとおり受理することとする。

議案第19号 令和5年度（令和4年度事業）出水市教育委員会の事務の点検及び評価について

— 令和5年度（令和4年度事業）出水市教育委員会の事務の点検及び評価を実施するもの —

（教育総務課長）各事業の説明を各課長等がする前に簡単に事務事業点検評価の概略を説明する。

点検については、地方教育行政の組織及び運営に関する法律第26条に、点検をして報告書としてまとめて議会に報告及び公表しなければならないとなっているため、この法律第26条に基づいて点検を実施するものである。

本市においては、令和4年度に実施した5事業について評価を行っている。

評価の方法としては、まず、一次評価として担当課で評価を行い、次に、先月実施した点検評価委員5人による外部評価をしていただいている。

そして、本日、教育委員の皆様方に外部評価をしていただき、これを12月議会の最終日の20日に議会に提出するものである。

評価シートに出てくるA B C Dのランクについて、Aであれば「必要かつ十分に出来ている」、Bであれば「概ね出来ている」というふうに、A B C Dはこういうランク付けだと御理解いただきたい。

(1) 小・中学校給食費助成事業について

〈教育総務課長が評価シートに沿って説明〉

〈質疑〉

（中村委員）意見を言う前にこの内容についての質問をよろしいか。

まず4年度については、後で助成分を返すことになっていたが、その方法は各保護者に直接、市から銀行振り込みとか、そういう形で行われていたのか。

（教育総務課長）そのとおりである。

（中村委員）令和5年度については、当初から徴収しないとなっているが、今度は市から各学校、あるいは給食センターの会計に同等額分を振り込むという方法になっているのか。

（教育総務課長）市から各学校に同等額を振り込み、保護者からの徴収額とあわせて、学校が給食センター等に振り込んでいる。

(中村委員) 去年と今年でやり方を変えているが、実際に各学校で給食会計を担当している方から、良くなったという評価の声は聞こえてきているのか。

(教育総務課長) 昨年度は、P T A事務の方や事務の先生方からいろいろ御意見、アドバイス等があったと聞いたが、今年度に関してはやり方を変えており、実際P T Aの事務の方、事務の先生方からのアドバイスや助言等はあるが、概ね現場としても事務は大分改善されたという意見はいただいている。

(教育長) それではこの二次評価については5段階という五つ項目があるが、一次評価は「改善して継続」となっている。外部評価の結果はどういう取扱いになるか。

(教育総務課長) 外部評価は、意見・助言をもらうということで、事務局の評価プラス外部委員の評価コメントを踏まえて、最終的に教育委員会で評価を決めるということになっている。

(教育長) 今年に対してではなくて、去年の事業を評価するというので、この「改善して継続」というのは4年度の状態を改善して継続なので、5年度は今あったように改善をしているということである。

4年度はどうであったか教育委員会としての最終的な評価を出さなければならぬが、一次評価の「改善して継続」と同じで、教育委員会としての二次評価は「改善して継続」ということでよろしいか。

〈異議なし〉

## (2) 英語暗唱・弁論大会等について

〈学校教育課長が評価シートに沿って説明〉

〈質疑〉

(宮本委員) この目標達成度にICTの活用というところがあるが、多分そう遠くない将来、恐らく言葉の壁というのはなくなってくると思うので、語学力がなくても他の国の方とコミュニケーションがとれる時代が来るのかなという気がしている。

そういったことに対してのICTの活用、多分オンラインの交流だと思うが、コミュニケーションツールとしてのICTの活用という考え方はあるのか。

(学校教育課指導監) その必要性については、今、授業の中では、自分が言いたいこと、自分で考えたことと、翻訳アプリを使って示されたものと比較するというか、そ

ういう使い方はしている。おっしゃるように有効な部分はあるが、翻訳アプリで示されたものが正しくて、自分が考えた英語は正しくないと考えてもらっても困る。

交流については、子供たち同士の会話においては、やはり最終的には機器を使わずに会話がとれるようになりたいという希望が多い。

(中村委員) 調べたがちょっと分からなかったのですが、AEAというのは、これは何の略なのか教えてほしい。

(学校教育課長) 日本人の英語指導助手を示している。

(学校教育課指導監) アシスタントイングリッシュアクティビティの略で、英語の活動をアシストというか、支援してあげる支援員、英語を教えるというよりは、日本人なので、小学校の授業を中心に中学校の授業にも回ってもらっている。

(中村委員) AEAは何人いるのか。

(学校教育課長) 1人である。

(中村委員) この経費が令和4年度実績で2,200万円余りかかっているが、主な支出項目というのはどんなものか。

(学校教育課長) 費用については、ALT等の人件費にほとんどが使われている。

(中村委員) ALTはこのイングリッシュスピーチコンテストを実施するために雇用しているわけではないが、その人件費がここに入っているということか。

(学校教育課長) 費用として、ALTの授業での活用も含めてこのくくりの中で予算化されている。

(中村委員) だから事業費として大きく見えるわけだ。このスピーチコンテストだけだったらそんなに費用はかからないということで、承知した。

もう一つ、目標達成度のところで、5年度については、4年度とは違って全校でのオンラインの交流を進めていくことが可能であるとなっている。5年度はもう9か月ちょっと経過しているが、今のところの実態とか進行状況はどうなっているかお尋ねしたい。

(学校教育課長) 高等学校も含めて、全ての学校で実施、間もなく実施ということになっている。

(中村委員) 大分進んでいるということで、承知した。

(教育長) 学校教育課の外国語教育、主な事業が英語暗唱弁論大会ということだが、これは一次評価が「改善して継続」となっている。外部委員の意見は記載のとおりだが、教育委員会の意見としては、どのようにするか。

(池袋委員) 今回の評価の対象事業が、英語暗唱弁論大会ということだが、この出水市の教育事務点検会議からの意見に私も追随したいと思う。ここから派生して、また海外交流だったりオンラインの交流の助成だったり、かかるコストも拡大していただきたいというところはある。

「改善して継続」もだが、事業拡大を検討されてもいいというぐらい、力を入れてもいいのではないかと私は意見したいと思う。

(教育長) 外部評価の意見の中に、さらに事業拡大に関する意見があることを踏まえて、池袋委員としてはこの「事業拡大を検討」でいいのではないかということか。

(池袋委員) グローバル人材の育成とか、興味、関心を持って取り組む子が増えているというのを聞くと、効果も非常に大きいし、期待も大きいというところもある。

以前は、旧高尾野町、野田町にも、こういう留学の補助みたいなので募集をされていたりとか、出水市でもそういった事業があったが、今は廃止になっていると思うので、その復活とまではいかななくても、またそういったニーズが出てきているのかなと思う。

(教育長) 他の委員の方はどうか。

(宮本委員) 今の意見に付随して、今回の主な事業費名というのは英語暗唱・弁論大会だが、海外交流とかそういう別の事業は今のところないということでもいいか。

(学校教育課長) 令和4年度はない。

(教育長) 4年度は、ここにあるように、グローバル化に対応した外国語の充実としては、暗唱大会やALTの活用、海外との交流、オンライン交流というのがあった。

今、宮本委員がおっしゃるのは、今後、それを拡大するような予定はないのかということか。

(宮本委員) これ以外の事業が令和4年度はなかったのかということである。

(学校教育課長) 学校教育課では、なかったと認識している。

(教育長) この令和4年度の実施状況に英語暗唱・弁論大会、ALT・AEAの活用、海外の学校との交流と三つ書いてあるが。

(学校教育課長) この三つが学校教育課のその事業ということで実施している。

(生涯学習課長) 生涯学習課では、大韓民国の順天市と青少年交流事業というのを実施は

しているが、4年度についてはコロナの関係でオンライン交流を行ったのみで、直接の交流はなかった。生涯学習課では、そのような青少年の交流事業を行っている。

(教育長) 外国語教育の充実というのではなかったのここに上げていないが、外国との交流はそういう形で他にあったということである。

(宮本委員) そうなった場合、生涯学習課の事業を学校教育課のほうに落とし込むとか、そういったことは予算上難しいと思うが、聞いていけば、似たような、どっちなのかなという気はする。

(生涯学習課長) 生涯学習課でやっているものは、そういう語学のほうではなく、姉妹都市としての青少年の交流ということを目的に実施している。

(教育長) 宮本委員がおっしゃるように、大きくくくると、そうなると思うが、ここで言う外国語教育の充実という視点でいうと、学校教育課の分と分けているということになる。

(宮本委員) ということは、姉妹都市に限らず他のところとの交流も含めてという考えということか。

それでいけば、池袋委員が言われるように、事業拡大というところでもいいのかなと。当然そのグローバル化というのを見据えた今後の世の中になると思う。

(中村委員) 先ほどお尋ねした、今年度はどうかということと言うと、もうほぼそれぞれの学校で実施が出来ている、あるいはもう出来ようとしている、ということからすれば、拡大しているということにも近くなっているので、いわゆる「事業拡大を検討」ということでもいいのかなと思う。

(教育長) 教育委員の皆様の見解を伺うと、この二次評価については「事業拡大を検討」でいいのではないかとということだが、それでよろしいか。

〈異議なし〉

(教育長) それでは皆さん一致しているので、学校教育課の事業についての教育委員会委員による総合評価は「事業拡大を検討」という形にして、意見等は外部委員の意見とか今出た意見等をもとに記述をさせていただきたいと思う。

### (3) 出水ふるさと学寮について

〈生涯学習課長が評価シートに沿って説明〉



〈質疑〉

(中村委員) 令和4年度の1回目と2回目で、2回目のほうが参加者数が結構増えているが、それを見ても対象者の範囲を拡大したというのが一つあると思う。

もう一つ、1回目が3泊4日で、2回目が2泊3日と1日短くなっているが、参加者の意見として、2泊3日のほうが良かったとか、そういった意見があつて良いと思われて参加をしたのか、そういう分析はされたのかお尋ねしたい。

(生涯学習課長) ここの日数による参加者数について、詳しくその聞き取りはしていないが、1回目の3泊4日については、ちょうどコロナの感染拡大の時期で、この定員は16人ということで募集をしている。

2回目の2泊3日については、やはりコロナ対応ということで、若干短めにしておいて実施をしており、こちらは定員が24名ということで、ちょっと定員数も違うと思うが、そのようなことで実施をしたところである。

(中村委員) 承知した。

評価のところは平日に通学をしていると書いてあるが、その通学方法はどのようにしているのか。

送り迎えとかをしているのであれば、それがこの人的コストという職員負担という言葉になっているのかなと思うが、その通学の方法と、それが負担になっているのかどうかお尋ねしたい。

(生涯学習課長) 令和4年度の通学については行き帰りタクシーでの通学となっている。

随分前は職員が送り迎えをしていたこともあったと聞いているが、その頃と比べると大分、職員の負担は減っている。

(中村委員) タクシーの費用は青年の家で出しているのか。

(生涯学習課長) 生涯学習課で予算化し負担している。

(中村委員) その職員負担というのは、どういったことが負担になっているのか。

(生涯学習課長) 平日宿泊を伴う事業なので、職員が青年の家と一緒に宿泊をして実施をしている。そこについて、例えば、他にボランティアでしていただけないかとか、そういうところから検討していく余地があると考えている。

(宮本委員) 今の話だが、募集定員に対しての応募の倍率というのは大体どれぐらいか。

(生涯学習課長) 5年度が、二つ合わせて64人の定員に対し、112人の応募があった。

倍率は1.75倍となる。

(宮本委員) それを参加された方の満足度としたら非常にこれ高い事業なので、参加させる親としても、やっぱり自然体験、ノーメディアというところにつながる事業なのかなという気がしている。

もう少し周知をして、特にスマホなどに依存しているような子供に対して、積極的に参加したいなあと思うような広報をしていただければ、非常にもっと良くなるのかなと思う。

(教育長) それでは生涯学習課についての、この教育委員会委員による総合評価はいかがでしょう。一次評価では「改善して継続」と評価しているが、この評価でよろしいか。

〈異議なし〉

(教育長) 委員の方々から、このままでいいのではないかということなので、生涯学習課の事業についての教育委員会としての二次評価は「改善して継続」ということとする。意見は今いろいろ出たので、こういったのを踏まえてまとめさせていただきたいと思う。

#### (4) 校務用パソコン等更新事業及び校務支援システム導入事業について

〈出水商業高校事務長が評価シートに沿って説明〉

〈質疑〉

(宮本委員) この事業費に国庫支出金というのがあるが、前のページでこのうち交付金というところが該当すると思うが、この国の補助金は単発のものなのか、それとも毎年続くようなものなのか。

(出水商業高校事務長) 単発の補助金である。

(宮崎部長) コロナ関係の臨時交付金があったので、その交付金で、単発のものである。

(宮本委員) たまたま、その更新時期とその交付金が合致したから活用できたということか。

(宮崎部長) そうである。

(宮本委員) ところが、今後は市の財源でどうにかしないといけないという感じになって

くるのでは。

(宮崎部長) 校務用パソコンの更新事業のための国庫補助金ではない。

(宮本委員) これは、やはり一括で変えたほうがいいのか。例えば、毎年2割ぐらいずつ更新していくとか、そういったことはあまりないのか。ちょっと民間とは考え方が違うと思うが。

(出水商業高校事務長) 資料の2番に27年度に更新したパソコンが記載されているが、Windowsも8.1で、セキュリティーの問題等にも支障があったので、7年ぐらい経過しているパソコンをバージョンアップ等を含め、今回35台まとめて更新をしたところである。

(宮本委員) それで今後に関しても、いっぺんに35台ずつ変えていくような計画ということでもいいのか。

(出水商業高校事務長) 4年度に更新したので、今後もそういった適切な時期に更新をすることが見込まれるが、また、できれば同じような形で更新を進めていきたいと考えている。

(教育長) 今の質問は、結局、Windows10に全て更新していて、Windows8.1はもうなくなって、全て変わっているのかという意味だと思うが。

(出水商業高校事務長) 35台更新したパソコンについては、Windows10に全て更新している。

(教育長) Windows8.1はもうなくなって、残りも全て更新しているのか。

(出水商業高校事務長) 学校にある分は全て更新している。

(中村委員) 35台はもう全員1人1台になっているのか。35人に35台で、全員にわたっているのか。

(出水商業高校事務長) ちょっと足りないところがあり、そこについては既存のパソコンを使っている。それもWindows10に更新をされたと理解している。

(中村委員) 校務支援システムは県立高校のものと全く同じシステムなのか。

(出水商業高校事務長) 先ほど説明したとおり、令和3年4月に県立高校ではシステムを導入されており、鹿児島県と全く同じものになる。

(中村委員) 承知した。

それと、4年度が96万円の経費、5年度は128万円の経費で、5年度は使用料で書いてあるが、これを開発した業者に使用料を支払うということなのか。

(出水商業高校事務長) そういうことである。

(中村委員) 市では分からないかもしれないが、県立高校全体で相当大きな額をその業者に支払っている。1校で128万円ということは、そういう業者がすごく儲かっているということか。

(出水商業高校事務長) 使用料としてはそういう額になるが、システムが更新され、自動更新もされるため、常に最適な環境で行われるように、そういった費用も含めた使用料となっている。

(中村委員) ずっとそういうふうにその都度更新されて、バージョンアップされていくということか。

(出水商業高校事務長) そうである。

(教育長) ちょっと誤解があるといけないので確認するが、小・中学校も全職員1人1台パソコンが支給されており、高校もそうになっているはずである。

35台が今回更新されたが、平成27年より後に更新されたのものもあり、合わせると1人1台みんなに支給されているのではないか。支給されていない人がいるのか。

(出水商業高校事務長) 今、明確には答えられない。

(教育長) 小・中学校は全員分を同時に更新するのではなく、年次的にずらして更新していると思うが。

(教育総務課長) そうである。市役所もそうだが、小・中学校は一度に全員分ではなくて、年次的に予算的に平準化を図る必要もあり、数が多いので複数年かけて計画的に更新している。

(教育長) 県立学校もそうになっているので、市立もそうになっていると理解している。基本このパソコンがなかったら今は仕事にならないはずなので。

(出水商業高校事務長) 35台更新をしている他に、パソコンは2台ある。

(教育長) 37人しか職員がいらないということか。

(出水商業高校事務長) 職員は37人である。

(教育長) 出水商業の場合、同時に交換、更新しているということか。

(出水商業高校事務長) そうである。その他のパソコンとして平成29年に更新したパソコンがあり、それがWindows10、その2台を使っている状況である。

(中村委員) もう一つ、先生方はパソコン以外のタブレット、生徒のタブレットを使うのか。それと同じタブレットも持っているのか。

(出水商業高校事務長) タブレットも1台ずつ持っている。

(中村委員) パソコンとタブレットでは、使用の内容が違うということか。

(出水商業高校事務長) 校務用パソコンは校務・事務の中で使っており、タブレットは授業を中心に使っている。

(池袋委員) 観点別評価の1番上の、市民ニーズに適した事業であるかというところで、この説明の中で、作業効率の向上だったりとかが非常にうかがえるので、学校現場のニーズと市には適した事業であるという評価であるが。

聞かれているのは市民ニーズであるところまで掘り下げていくと、外部評価にもあるが、この事業に対して、どれぐらいの作業効率の向上があったのか、それが図れたことによって、教育内容だったり、生徒、教育に還元されるのがどれぐらいあったのか、というところまで含めて評価されると、市民ニーズに適していると、いないと言える、そういった評価ができるのかなと思うので、もう少し掘り下げて、また具体的にお示しいただければありがたいと思う。

(教育長) 今のは意見ということでよろしいか。

(池袋委員) はい。

(教育長) 今あったように、具体的にこの勤務時間を何時間削減した、何%効率化できたかというのを明確に示した上で、事業の効率化を図ったと言えるようにしてほしいということか。

(池袋委員) 目的が事業効率化というのは分かるが、作業効率を図ったことにより教育の内容が充実した、その結果につながったというところを明記していただけると、更に良いのかなと思う。

評価に関しては異議はない。

(教育長) それでは、この出水商業高校についての教育委員会の二次評価だが、一次評価では「現行のまま継続」となっているが、ここについてはどうか。

(宮本委員) 今の話から言えば改善になるのかなと思う。

(池袋委員) 評価の仕方の提案だったので。

(宮本委員) 費用対効果を数値として見えていたほうがいいので、これに対する仕組みが今はないので改善になると思う。

(池袋委員) ただ、学校の先生方のニーズ、学校の現場のニーズには非常に適していると

いうことで、すごく良かったと思っている。

市民ニーズという観点からは、通っている生徒や、通わせている保護者、市立学校を持っている出水市のニーズに合っているのかというところ、ちょっと掘り下げ過ぎかも知れないが。

(教育長) 今のでいくと評価方法は改善してほしいが、事業そのものは良いということになるので、事業自体は提案のとおりでいいということか。

(教育総務課長) 事業の評価をしていただきたい。

(中村委員) 事業自体も、いっぺんに変えるのではなくて定期的に変えるという方法をとってやっているのであれば、次の時にどうするか工夫する必要があると思う。これから言えば改善して継続なのかなと思うがどうか。

(池袋委員) 今回はコロナの交付金がたまたまあったから、35台、ほぼ100%変えることができたということか。

(教育総務課長) 商業高校は台数が少ないので、35台を一気に更新できたが、小・中学校の教職員や市職員は人数が多いので、複数年にわたって更新している。35台くらいだったら、まとめて買ったほうが1台の単価も落ちるので、そうしたのではないか。

(教育長) 本来は全部同時に変える方がいいが、市や小・中学校は職員数が多いので年次的にしているということか。

(教育総務課長) そのとおりである。

(池袋委員) そういうことであれば、私はいいと思う。

(教育長) それでは、意見がまとまったので、出水商業高校についての教育委員会の二次評価は「現行のまま継続」ということで、意見は先ほどいろいろ出たので、そういったのを入れてまとめていただくということで、よろしいか。

〈異議なし〉

## (5) 四季の自然まつりについて

〈青年の家所長が評価シートに沿って説明〉

〈質疑なし〉

(教育長) それでは特に質問、御意見等ないようだが、二次評価はどうか。

「現行のまま継続」という一次評価をしているが、これでよろしいか。

(中村委員) 内容については更新していくということなので、「現行のまま継続」でいいと思う。

(教育長) 事業そのものはこのままで、内容については更新していくということだった。意見として今あったように、事業そのものは非常に素晴らしいので、その内容はさらに工夫して、いろんな参加者の意見などを取り入れて、そういうことで、「現行のまま継続」ということで、教育委員会の意見としてまとめたいと思う。

〈異議なし〉

〈議決〉

(教育長) 異議がないので、議案第19号は原案のとおり可決することとする。

## 5 その他

### (1) 大谷翔平選手からのグローブの寄附について

— 寄附等の受け入れの判断について —

(宮本委員) 2か月ぐらい前に大谷翔平選手が各小学校にグローブを配るという、素晴らしい事業があったと思うが、この受け入れに関しても、学校長の判断になるのか。その所有権だったり、そういうものを含めて、受け入れる、受け入れない、使う、使わないというのは、もう全部学校長の判断になるのか。

(学校教育課長) 学校長だけの判断ということではなく、職員にも諮ったりしながら、総合的に判断して、最終的に校長が決めている。

全ての学校に公文を今、おろしているところで、まだ集約が終わっていないところである。

(宮本委員) 今回、非常に全国的に話題になった案件だと思うが、今後、全然別の団体が悪く言えば、一方的な送りつけではないが、そういう感じにとらえた場合に、いかなる団体が事前通告なしに、寄附しますといった場合の対応というのも、教職員の方とその校長先生の判断ということになるのか。

世の中いろいろな団体があると思うので、ニュースを見ていてちょっと気になったところだった。

(教育長) 校長は、今説明があったように、職員の意向、意見を職員会議等で伺うが、最終的に決定をするのは校長になる。校長も自分個人の意見ではなかなか決め切れないがあるので、当然のことながら、判断に迷う場合は教育委員会に相談もし

ている。

そういった様々な意見を考慮して最終的に決定するというので、どこにも相談せずに校長だけの意見で決めるというわけではないと理解していただければと思う。

## (2) タブレットのフィルタリングについて

— どのように制限しているか —

(宮本委員) 今、学校に生徒1台タブレットを支給していると思うが、そのフィルタリングに関して、恐らくアプリは生徒のほうから入れることは多分出来ないと思う。

ただ、ブラウザでできるゲームがあるみたいで、それを授業中にオンラインでしていると聞いた。それで、家でIDとパスワードをとって、学校内でログインすると、クラス内で通信をしながら複数人の子供がゲームをしているらしい。

特定のサイトを遮断するような仕組みは多分あるとは思いますが、そういった場合に、出水市のどこかの部署が一括で全校にフィルタリングの設定ができるのか、それとも学校単位なのか、クラス単位なのか、こういった形で制限をかける仕組みがあるのか教えてほしい。

最近、そういう話を聞いて、結構、音が出ていたりして授業に支障があるということだったので、どうにか対応が出来ないものか。

(学校教育課長) フィルタリングについては、タブレットの中で当然、全体的にすべきフィルタリングは全部しているところだが、実際にはそれをくぐり抜けて、いろんなところにアクセスするという学校が出てきているようだ。

その都度、学校のほうでは、アクセスしたものをまたフィルタリングするという作業をし随時更新していると、こちらに情報としては来ている。そういったところを学校と教育委員会とで共有しながら、取組を続けていけるようにしていきたいと思う。

ただ、すごく多岐にわたるものがあり、なかなかすぐに対応できないものもあるかもしれないので、そういったものも、今後いろいろなところと連携をとりながら取り組めるようにしていきたいと思う。

(宮本委員) 今の話でいうと、フィルタリングの設定はあくまで学校単位でしか出来ないということか。

(学校教育課長) 大枠のフィルタリングは全ての学校でかけてある。



ただ、今おっしゃったように、いろいろな方法で切り抜けられる。そういったものも実際に出てきているので、それについては、その都度、そのくぐり抜けたところをさらに調べて、そこにまたフィルタリングを設定していくことになる。

(宮本委員) その作業は、学校単位で行っているのか。

(学校教育課長) 教育委員会にも担当と専門官がいるので、常に情報を共有しながら、こういう例があったということは、他の学校にも共有はされている。

(教育長) 少し補足すると、先日、学校によってフィルタリングに差があるという実態があり、ICT専門官と指導主事で、学校の実情を把握していったら、学校の職員にもやはり差があったので、それを調整するような文書を出したところである。

また今後も、フィルタリング等の設定のレベルが低いところがあれば、専門官等が指導をしたりして連携をとっていく。

## 6 閉 会